

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産振興費

事業名 県営育成牧場備品購入費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部畜産振興課 酪農・飼料係 電話番号：058-272-1111 (内線 2875)

E-mail：c11437@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 16,300千円 (前年度予算額：12,200千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	12,200	0	0	0	0	0	0	0	12,200
要求額	16,300	0	0	0	0	0	0	0	16,300
決定額	13,000	0	0	0	0	0	0	0	13,000

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

岐阜県家畜育成牧場 (東濃牧場及び飛騨牧場) は、酪農・肉用牛生産の基礎となる繁殖雌牛の生産拠点とする目的で昭和48年に整備され、平成18年度より指定管理制度を導入し、(一社)岐阜県農畜産公社が管理運営を行っている。

家畜資源の確保及び畜産経営の合理化を目指した牧場運営を行うため、以下の備品を導入する。

【東濃牧場 トラクター】

東濃牧場では飼料自給率と経費削減のため、採草地53haで自給飼料 (牧草) を生産している。

牧草収穫時には、各作業を同時並行で行うため、牧草収穫機械を動かす動力源としてトラクターが5台必要となる。

現在、運用しているトラクターのうちの1台は、平成13年に導入し、長年の使用により動力系統の馬力低下が著しく、牧草収穫作業に支障をきたしている。

該当機械をより高能力 (高出力) の機械に更新することで、効率的に飼料生産を行い。また、飼料生産時以外は、毎日の飼料給与において、TMRワゴンのけん引、堆肥散布においてマニユアスプレッダのけん引に使用する。

(2) 事業内容

平成13年に導入したトラクターを更新し、効率的な自給飼料生産体制を整備する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担 10 / 10

(4) 類似事業の有無 : 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
備品購入費	16,300	トラクター（フロントローダー付属） 1台 16,300,000円
合計	16,300	

決定額の考え方

所要額を精査し計上します。

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

岐阜県東濃牧場および岐阜県飛騨牧場の管理に関する基本協定書(抜粋)(管理施設の修繕等)第17条 管理施設の改修、増設または移設については、甲(県)が自己の費用と責任において実施するものとする。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

岐阜県東濃牧場および岐阜県飛騨牧場の管理に関する基本協定書に基づき、適正に牧場の維持管理を行う。家畜育成事業を円滑に行い、優良な乳用初妊牛及び優良な和牛子牛の安定供給を継続して行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目標	達成率
乳用初妊牛譲渡頭数 （東濃牧場）	/ (H)	369 (H29)	372 (H30)	445 (R1)	360 (R3)	124%
和牛子牛供給頭数 （飛騨牧場）	/ (H)	179 (H29)	185 (H30)	185 (R1)	190 (R3)	97%

○指標を設定することができない場合の理由

--

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

東濃牧場 換気送風機を第2哺育牛舎に設置（令和元年度）

飛騨牧場 家畜運搬車の更新（令和2年度（発注済み））

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

暑熱に弱い哺育牛のため、哺育牛舎に換気送風機を設置したことで、暑熱による食欲不振解消や疾病防止につながった。

今後、子牛の育成率、増体量の向上が見込まれる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い 	
(評価) ○	公共牧場の安全管理のため、老朽化した機械は適時更新する必要がある。また、多頭飼育管理を行うため、作業の効率化は重要な課題であり、機械化を図るための備品購入は必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	人員が不足する中、機械化により作業を効率化して対応しているので成果は大きい。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある 	
(評価) ○	備品購入計画により、効率的、効果的に進めている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 老朽化が進み、機材の更新時期が重なっているため、計画的な更新が必要である。また、安全な牧場運営管理のために、日々の点検、早期の修繕等が重要である。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 牧場の安全な運営管理、事業効率化のためには、備品購入は今後も継続していく必要がある。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	